

令和5年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 一人一台端末を効果的に活用した指導方法の工夫・改善により、生徒の主体的で協働的な学びを支援し、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。（学びのスタンダード）	① 県工学びのスタンダードと「R80」を活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「Chromebook」を活用した意見交換や記述を求める授業や「県工 Thinking time」、「R80」などを通して、根拠をもとに論理的に発言したり、記述したりすることができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。[改定]  A 75%以上 B 65%～75%未満 C 55%～65%未満 D 55%未満	（教務課・各教科）最終評価（A） 「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒の割合が87%であった。新型コロナウイルスが第5類に移行してから、ペア学習、グループ学習を積極的に行えるようになり、前年度よりも生徒の思考力・表現力を高める授業が行えたことが要因と考えられる。また、Chromebookを活用した、授業の内容理解度を把握する確認テストの実施や授業の振り返りとしてのR80や四行録等も生徒にかなり浸透してきていると感じられる。プレゼンテーションをさせたりする取り組みも多く見られた。ただ13%の生徒が否定的な回答をしているため、今後もさらにChromebookの活用を研究し、授業のねらいに向けて効果的に言語活動等を行うことにより、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていきたい。
	② 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組むことで、学習の定着を実現する。	教務課 各教科	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。[継続]  A 85%以上 B 75%～85%未満 C 65%～75%未満 D 65%未満	（教務課・各教科）最終評価（A） 「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒の割合が85%であった。前年度よりも割合が1ポイントではあるが上昇した。生徒の多くは目標を定め、継続的に学習に励んでいると考えられる。ただ資格取得等に向けての取り組みは積極的であるが、教科の予習・復習に関する家庭学習については、評価はあまり高くない。成績不振者がいる場合には、教科担当や担任からの指導、学校全体としては、放課後補習期間を設け学習の取り組み姿勢や教科指導を行っている。学ぶ場と時間を与え環境を整えた形で、今後も継続して実施していく。もっと多くの生徒がより積極的に学習に取り組めるよう授業や課題の内容及び環境の改善も進めていきたい。
	③ 授業の情報化推進の一環として、ICT機器の活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。	学習情報課	1人1台端末の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。[継続]  A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	（学習情報課）最終評価（B） 「先生は1人1台端末を効果的に活用した授業をしている」という問いに対して「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した生徒は69.1%（13,904人中9,613人）であり、B評価となった。前期より10ポイント上昇しており、先生方の工夫の成果が着実に表れていると思われる。今後さらに公開授業や各分掌を中心とした研修を通してICT機器の活用を促進し、学力の定着につなげていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末を自宅へ持ち帰らせていないのはなぜか。自宅にWiFi環境が必要であるが、持ち帰ることで、有事への対応や端末でしかできない課題の設定、自宅学習、貸与物に対するマナー指導等につながる。どんどん使って社会へ出たときにすぐ使えるようになってほしいし、県工の特色になると考える。</li> <li>1人1台端末について、ニュースで大量の自然故障が出ていると聞いたが県工は大丈夫か。更新時にも気を付けてほしい。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>端末でしかできない課題の設定や貸与物に対するマナー指導、社会での即時対応、本校の特徴等という観点からの端末の持ち帰りについては関係課と相談しながら検討していきたい。</li> <li>1人1台端末は、石川県から支給されたものである。不注意等での故障はあるが自然故障は聞いていない。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 規範意識やマナーの向上を通して、将来の職業人として高い意識を持った生徒を育成する。（人間力スタンダード）	① 校訓を掲げることであり、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	日頃、生徒がしっかりと挨拶を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。〔継続〕 A 85%以上 B 65%～85%未満 C 45%～65%未満 D 45%未満	（生徒指導課・各学年）最終評価（A） 「あなたは、日頃生徒がしっかりと挨拶を行っていると思いますか」という問いに対して、「当てはまる」、「やや当てはまる」の合計が85%となり評価はAである。昨年度よりは評価は上昇した。生徒または保護者の評価は90%を超えている。今後も挨拶の大切さをあらゆる機会ですべて指導するとともに、教員からの挨拶をより高いレベルで実践しながら指導を継続し、自らしっかりと挨拶できる自己肯定感の高い生徒を育てていきたい。
	周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工ものづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。〔継続〕 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	（総務課）最終評価（D） 生徒の肯定的な回答（あてはまる、ややあてはまるの計）が、前期53%、後期55%であり、教員の回答（前期81%、後期79%）及び保護者回答（前期94%、後期92%）となり、生徒の肯定的な回答が低かった。生徒にとっては、産業教育フェアでの外部の方へのものづくり体験等の活動も一部の生徒のみの参加であったことや学校周辺美化活動や除雪作業等がなかったことが原因とみられる。 改善策としては、上記の行事に加え、中学校PTAやその他の団体等の来校時の交流等やクリーン・ビーチしかわに携わる活動等各科で実施している様々な活動も地域貢献につながっていることを生徒に意識させていきたい。またものづくりコンテスト参加やポスター応募等は地域の産業振興に寄与していることも意識してもらった上で参加してもらおう等も挙げられる。さらには質問内容を再検討し、より現状に即したものにしていこうと考えている。
	② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数（累計）減少の割合で判断する。〔継続〕 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	（生徒指導課・学年団）最終評価（D） 本校の違反件数は、昨年の48件から228件と大幅に増加した。本校では、自転車マナー検定の全校生徒実施、グッドマナーキャンペーンの実施に加えて個別に交通安全指導を行っている。また、毎朝校門での自転車乗車マナー指導も行っているが教員が見ていないところでの交通ルール違反が多いのが残念である。違反数の7割以上が放課後の下校時間帯であり、違反の半数が「並進」である。違反項目がなぜ違反であるか等を再度理解させ、自分の命を守る行動や他人を思いやれる行動ができるよう今後も粘り強く指導していきたい。
③ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができていると思うかについて、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。〔継続〕 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	（生徒指導課・全職員）最終評価（A） 肯定的な回答をした教員が96%でした。教員側の認識としては、情報交換は十分にできていると考えていることがうかがえる。生徒に対しても、機会ある毎にいじめは許されないことを伝え、生徒からのサインを見逃すことなく、これからも生徒指導課、教育相談課、担任が風通しのよい状態を構築し、組織的に対応していく。	
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車交通違反件数が非常に多いが理由はあるのか。ヘルメットの着用と関係しているのか。町会からの苦情等はないのか確認してほしい。部活動も巻き込んだ指導も検討してほしい。</li> <li>・除雪ボランティア活動は町会として助かっている。12月の大雪の際にも自主的に除雪していただき助かった。</li> <li>・連携授業で大学生と来校した全員が元気な挨拶をしてくれて気持ちがよかった。今後も挨拶指導は継続してほしい。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車交通違反件数については、並走が多かった。命に係わることなので引き続き粘り強く指導していきたい。部活動を巻き込んだ指導も検討していく。町会からの苦情は特になが危険であることには間違いないのでしっかりと指導していきたい。ヘルメット着用に関しては違反項目になっていない。本校でも強制はしていない。</li> <li>・周辺美化活動や除雪ボランティア活動等は、今後も継続していきたい。県工は町会に大切にされていると感じている。また挨拶指導についてももしっかり継続していきたい。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3 専門的技術の習得をはじめ、資格取得や検定、コンテストに意欲的に取り組み、確かな進路実現を図る。(技能スタンダード)	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 [継続] A 90%以上 B 85%~90%未満 C 80%~85%未満 D 80%未満	(進路指導課・3年学年団)最終評価(A) 1社目の試験を159名受験し11名が不採用(公務員希望3名の不採用を含む)であり、内定した割合は93%であった。面接試験で会社への理解が乏しい、協調性が低い生徒が不採用となっている。生徒には企業研究、他者の意見を受け入れ、自分の考えや意見を伝えられる力を各学科・課と連携し育成を図りたい。
	② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7学科 教務課	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。 [継続] A 70名以上 B 60名~70名未満 C 50名~60名未満 D 50名未満	(工業7学科・教務課)最終評価(D) 12月末時点での認定予定者は、特別表彰5名、ゴールド12名、シルバー17名の34名の予定である。昨年度の最終認定者は、特別表彰なし、ゴールド33名、シルバー14名の47名であったため、合計人数は減少した。ただ特別表彰者が5名と難易度の高い資格を取得した生徒が多かったことは称賛に値する。資格取得は目的ではないが、専門科目の深い学びにつなげるためのモチベーションアップになることには間違いない。資格取得の有益性を生徒にしっかりと伝えていきたい。
	③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7学科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合、大会出場の難易度で判断する。[継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した ----- [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。[継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した ----- 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 [継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	今年度も多くの大会やコンテスト等に参加することができた。今年度は、工芸科やテキスタイル工学科で全国トップの成績を収めることができた。来年度も積極的に取組んでいきたい。 [地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会](工業7学科) 最終評価にて実施(B) ○機械システム科(B) ・第23回高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門石川県大会 2位、3位(1名北信越大会出場) ・第27回石川県高等学校ロボット競技大会優勝(全国大会出場) ・ジャパンマイコンカーラリー2024北信越大会 Camera Class 第6位(全国大会出場) ○電気科(D) ・第23回高校生ものづくりコンテスト電気工部門石川県大会 優勝、2位 ○工芸科(B) ・愛鳥週間ポスターコンクール県審査 最優秀賞(全国大会出場)、優良賞、優秀賞 ・令和6年度国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール準特選(県大会) ○デザイン科(A) ・全国理容美容学生技術大会信越北陸地区大会ヘアデザイン画部門 銅賞(3位)、敢闘賞 ・国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール 中央審査出品 [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会](工業7学科) 最終評価にて実施(A) ○機械システム科(A) ・第28回全国ソーラーラジコンカーコンテスト2023 in 白山 5位 ○工芸科(A) ・第6回学生選抜展 優秀賞(高校生部門ベスト4) [各種コンテスト、コンクール](工業7学科) 最終評価にて実施(A) ○工芸科(A) ・国立科学博物館主催 第40回植物画コンクール 文部科学大臣賞 ・第36回いしかわ県民陶芸展 いしかわ県民陶芸大賞 ○テキスタイル工学科(A) ・学校法人上田安子服飾専門学校主催「第6回全国高校生ファッションデザイン画コンテスト2023」第1ファッションイラスト部門 グランプリ、 ・神戸ファッション専門学校主催「第26回全国高校生デザイン画コンクール」神戸新聞社賞 ・金城大学短期大学部主催「第23回北陸三県絵画・デザインハイスクール選手権」佳作 ○デザイン科(C) ・環境月間ポスター県審査 最優秀賞、優秀賞、入賞 ・愛鳥週間ポスター県審査 優秀賞、優良賞
学校関係者評価委員会の評価	・資格取得指導の項目について、人数でなくポイント制がよいのではないか。その方が県工の特徴が出やすいと思う。 ・売り手市場にも関わらず就職希望者が1社目に11名落ちたのはなぜか。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・資格取得指導の「評価の観点」及び「達成度判断基準」については、今年度のアドバスを参考に次年度に向けて検討していきたい。 ・就職希望者が1社目に落ちた理由は、県外の大手企業受験者であったこと。求人数に対して他校と競合して挑戦した企業であったこと、また自分の思いをうまく伝えることができなかったこと等が原因であったと考える。現在は就職希望者全員内定をもらっているが今後も丁寧な指導を心掛けていく。			

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 学校行事や部活動等を通して、粘り強くたくましい体力と精神力及び周囲と協働する意識や社会性を培う。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	<p>部・同好会活動に意欲的に取り組んでいるかどうかを生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。〔継続〕</p> <p>A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満</p> <p>県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて)〔継続〕</p> <p>A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下</p>	<p>(生徒会課)最終評価 ( A )</p> <p>後期学校評価アンケートにおいて、意欲的に活動に取り組んでいる生徒数は86%で、昨年度より1%上昇した。顧問の先生方の日頃の努力(生徒への指導・声掛け等)によるものと思われる。顧問の先生方にはご苦勞をおかけするが、継続して指導に取り組んでいただきたい。ただ一点、「④全く当てはまらない」と回答している生徒が6%(50名)と数が少し多いのが気になった。部活に所属していないからなのか、それとも部活に対して意欲的に取り組めない何かがあるのか、気がかりである。顧問や担任の先生方と情報の共有や対応をしながら、生徒を見守っていきたい。</p> <p>(生徒会課)最終評価 ( B )</p> <p>全国総体には、男子バレーボール部、ボクシング部、アスリートクラブ(アーチェリー、自転車)の3部4競技が出場した。近年、文化部の活躍も著しく、今年度は放送部・写真部が全国大会に出場した。来年度からは、総体だけではなく総文も含めた形で達成度判断基準を考えていきたい。</p>
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切に、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	<p>保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。〔改定〕</p> <p>A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満</p>	<p>(生徒会課)最終評価 ( B )</p> <p>肯定的に回答した合計が、生徒96%、保護者94%であった。生徒及び保護者とも高い評価となっており今後も学校行事を通じて物事に積極的に取り組む姿勢や協調性や責任感等を育てていきたい。本校は他校に比べて学校行事が多いが、生徒はとても意欲的に参加しているのがうれしい。次年度も例年通りの活動を実施していきたいと考えている。</p>
	③ 健康診断の事後処理の指導を強化し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	<p>視力検査・歯科受診済の生徒の割合で判断する。〔継続〕</p> <p>A 65%以上 B 55%～65%未満 C 45%～55%未満 D 45%未満</p>	<p>(保健課)最終評価 ( C )</p> <p>12月末の集計では、視力受診率47%、歯科受診率52%となった。進路先でも健康診断が必要であり、高校生の間に完治させておくことが大切であることをしっかり認識させたい。3学期も生徒に受診を勧めていく予定である。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<p>・学校行事について、他校と交流する機会はあるのか。幅広い交流を実施してほしい。</p>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<p>・高校間交流については、姉妹校との交流がある。企業や大学等訪問は現在も実施しているが今後も継続していきたい。</p>			

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5 教職員が相互に業務を点検・改善し、教育の質を落とすことなく組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。	各科・学年・各課	教員が学校で設定した定時退校日を守れている回数の平均で判断する。【継続】  A 12回 B 10～11回 C 8～9回 D 7回未満	（各科・学年・各課）最終評価（ C ） 全教員の平均は、8.0回であった。抱えている業務により個人差があることが考えられるが、当日の呼びかけ等、定時退校できる雰囲気作りができていたとの評価も多い。特定の教員に業務が集中する状況があるようであるが、業務分担を推進しているがなかなか解決しにくい部分がある。さらに業務内容の点検を行い、負担を軽減していけるように努めていきたい。Teams等の活用を推進し、定時退校への意識をさらに進めていきたいと考える。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多忙化改善については成果がでているのか。</li> <li>・ペーパーレス化は進んでいるか。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多忙化改善については、石川県の指導により成果はでている。本校でも積極的に取り組んでいるが、まだ一定数が残っているが現状である。定時退校しようという雰囲気は浸透している。働き方改革も推進しており、今年度は男性3名が育休を取得した。</li> <li>・ペーパーレス化は進んでいると考えている。PTAだよりの電子化も検討している。本校ホームページにもアップしている。</li> </ul>		